

「(仮称) 千葉市放課後子どもプラン」の策定について

1 児童の放課後の過ごし方に関するアンケート調査について

(1) 調査対象

- ア 未就学児（5歳児）がいる世帯の保護者を任意に抽出 579世帯
 イ 小学生がいる世帯の保護者とその子どもを任意に抽出 2,688世帯
 （うち特別支援学級は保護者のみ283世帯。通常学級世帯数2,405世帯）

(2) 調査期間

- ア 平成30年 5月30日 ～ 平成30年 6月11日
 イ 平成30年 5月30日 ～ 平成30年 6月 8日

(3) 回収状況

- ア 有効回答数 427件 有効回答率 73.7%
 イ 有効回答数 (ア) 保護者 2,187件 有効回答率 81.4%
 (うち特別支援学級 199件 有効回答率 70.3%)
 (イ) 小学生 1,988件 有効回答率 82.7%

2 調査結果

(1) 未就学児保護者

ア 現在の家庭状況について

保護者の帰宅時間は18時頃が多い。中央区では19時以降に帰宅する保護者が多く、緑区では19時頃までには回答者の全てが帰宅する。

イ 子どもルームについて

8割以上が利用を希望している。高学年までの利用希望が6割を超え、利用しない児童の過ごす場所は、自宅に次いで民間の預かりサービスが多い。

ウ 放課後子ども教室について

参加希望が4割を超えるが、未定も同程度あり、内容により判断される可能性がある。

エ 子どもの放課後について

8割以上が安全・安心な居場所を求めている。体験活動や宿題の支援の希望は5割弱、自由遊びは3割。緑区では他区より体験活動を希望する割合が高い。

一体型が導入された場合、6割がほぼ毎日の利用を希望し、18時までの利用希望が多い。

継続プログラムで負担できる費用は、3,000円～5,000円未満がもっとも多く、次いで1,000円～3,000円未満。

放課後を過ごさせたい場所は、低学年のうち子どもルームや民間の学童保育が多く、高学年になると習い事の割合が高くなる。中央区では、低・高学年問わず自宅の割合が高い。

オ 放課後施策に期待することについて

安全・安心な居場所や、安心できるスタッフの見守りへのニーズが高い。反面、地域との触れ合い・つながりを求める回答は1割未満と、その他や無回答を除くともっとも少ない。

(2) 小学生保護者

ア 現在の家庭状況について

常に誰かは家にいる世帯が3割以上と最も多く、15時以前に保護者が帰宅する世帯とで半数を占める。特別支援学級では常に誰かは家にいる割合が高い。

イ 子どもルームについて

2割が利用している。利用しない日は家族や友人と過ごしたり、習い事に通う割合が高い。ひとりで過ごす児童は1割未満。

利用していない児童は自宅で過ごす割合が高く、特別支援学級では民間の預かりサービスの利用率が高い。

ウ 放課後子ども教室について

登録率は2割に満たない。そのうち、ほぼ毎回参加している児童は4割弱となっている。塾や習い事があるため登録しない児童が多い。特別支援学級では登録していてもまれにしか参加しない児童が多い。

エ 子どもの放課後について

7割が安全・安心な居場所を求めている。次いで体験活動と自由遊びがほぼ等しく4割程度。特別支援学級では将来の職業の参考になる体験活動の割合が高い。

一体型が導入された場合、ほぼ毎日の利用を希望するのは2割に満たず、17時までの利用希望が多い。

継続プログラムで負担できる費用は、1,000円～3,000円未満が最も多く、次いで3,000円～5,000円未満。

オ 放課後施策のよい点や問題点について

放課後子ども教室や子どもルームについて、半数は利用していないとの回答。利用者の半数は満足寄りの回答をしている。

小学校内にある安心感やスタッフの見守りがよい点と評価されており、地域との触れ合い・つながりは1割未満と、その他を除くともっとも低い。特別支援学級では安心して仕事や自分の時間を確保できる点を挙げる割合が高い。

施設環境や高学年向けの活動が少ないことが問題点と感じられている。

(3) 小学生

ア 放課後について

友達と遊ぶことを希望している児童が多く、現実でもそのように過ごせている児童が多い。

イ 子どもルームについて

8割が楽しいと感じているが、高学年になるとその割合は下がる。異学年の友達は増えるが、高学年になると同学年の友達が減る。

ウ 放課後子ども教室について

8割が楽しいと感じている。友達や近所に住む大人で知っている人の数は変わらないとの回答が多い。低学年は自分の保護者に参加してほしい割合が高い。